

### 第3回胎内市立中学校再編検討委員会 会議録

1 開催日時 令和6年1月31日(水) 午後2時から午後3時30分

2 開催場所 胎内市産業文化会館 会議室

3 議 題 胎内市立中学校の再編等についての情報交換

4 公開・非公開の区分 公開

5 出席者

委員長	近 孝道
副委員長	塚野 陽介
委員	濱中 力也
委員	丹後 直子
委員	山田 せい子
委員	久保 俊幸
委員	佐藤 光
委員	松原 利弘
委員	富樫 新一
委員	河内 理助
委員	齋藤 聡
委員	久世 俊介
委員	西村 礼子
委員	上山 夏奈
委員	菅原 美穂
委員	佐久間 竜太
委員	中村 彩

教育長	中澤 毅
学校教育課長	丹後 幹彦
管理指導主事	池田 裕之
指導主事	山沢 正仁
指導主事	中村 祐一

学校教育係長 横内 和幸  
学校教育係主任 菅澤 真人

6 会議資料の名称

- 資料1 第3回胎内市立中学校再編検討委員会～グループ協議について～  
資料2 第3回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議（記入シート）

7 傍聴人の数 2人

8 会議の概要

---

(1)開会

○委員長（近）

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

これより、第3回胎内市立中学校再編検討委員会を行います。

開会に先立ち、委員会条例第6条2項の規定により、本日の出席者が過半数を超えておりますので、会議が成立したことをご報告申し上げます。

本日は2名の方が都合により欠席です。

年明けのお忙しい中、お集まりいただき大変ありがとうございます。

前回の委員会では、4中学校の統合とした場合に、新しい中学校の建設場所を主たる協議題として、2つのグループに分かれてそれぞれ話し合ってもらいました。ふれすぽ胎内や胎内小学校の近く、または、中条中学校という意見がありました。その中でいただいたメリットやデメリットなどのご意見は、今後の貴重な参考資料になるものと思います。本当にありがとうございました。

そこで、本日の第3回目の委員会では、これまでの協議を踏まえて、視点を地域に移し、「どのようにしたら中学校と地域とのつながりが保てるか」、また、「子どもたちにとってきめ細かな指導を継続していくには、どのようなことが考えられるか」について協議していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、前回の委員会の議事録と本委員会の資料の確認を行います。

それでは事務局、よろしくお願いいたします。

<事務局による前回内容の概要説明と配付資料の確認>

○委員長（近）

次のグループ協議に入る前に、テーマや進め方について、担当の山沢指導主事から説明してもらいます。よろしくお願いいたします。

○指導主事（山沢）

それでは、よろしくお願いいたします。

お手元に「第3回胎内市中学校再編検討委員会グループ協議について」という資料を配布しておりますので参照ください。本日のグループ協議の内容に入る前に、第1回、第2回を通して、どのような子どもたちが胎内市から巣立って世界に羽ばたいていくのかという理念を大切にしたいという意見を何人かの委員の方からいただきました。これについて説明いたしますので、確認していただければ有難いです。胎内市教育の基本理念は、「教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み」です。胎内市学校教育の重点は「地域とともに歩む学校づくり」となっています。一言でいえば、こういう子どもたち、こういう地域から、こういう教育環境から育ってほしいという思いが共通の思いです。

そして、胎内市小中学校の適正規模等に関することについての答申には、胎内市において、子どもたちがふるさとを誇りに思い、これからの社会を切り拓いていく生きる力を身に付けられるような望ましい学校教育環境の整備に取り組むことが大切であるとあります。第1回、第2回においてもこのテーマに基づいて話し合いを進めてきました。今現在、4中学校の学校運営協議会が設定した目指す子どもの姿、これを見ても、ふるさとを誇りに思う、それぞれの学校の最初にこの言葉が来ることが共通する特徴です。社会を切り拓いていく生きる力、これに関しては4中学校、それぞれを生徒の実態を捉えながら行っているということがわかります。そのような生徒を育てるために現在行われている教育活動、中条中学校2年生の地域学習を例に取り上げてみました。中条中学校では学年を6コースに分けて市内6カ所を訪問し様々な角度から地域の魅力に迫るという学習をしています。そこで地域おこし協力隊、市の職員、観光ボランティア等、コーディネーター、NPO等を介して地域の方とつながりながら学習を進めています。資料にあるとおり、鼓岡、大長谷、乙、中条、胎内平、築地の6つのコースです。市内全域をフィールドにして学習を行っています。学校から、それぞれの地域へ実際に足を運び、触れて、話を聞いて、体験をもとにした学習を既に行っています。

これらの学習をとおして、全国学力学習状況調査で実施されている中学3年生のアンケートでは、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」とい

う質問があり、51.7%が「そうである」と回答しています。これは、全国平均が38%ですので、これを大きく上回る結果となっています。また、「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「思う」と答えた中学3年生は77.8%で、全国平均を13.9%上回る結果でした。というのが今の中学生の実態であります。これらのようにすべての子どもがふるさとを誇りに思い、社会を切り拓いていく生きる力をしっかりと身に付けるために、10年後、生徒数が減少した段階においても実現できるような仕組みづくりを考えたいというところで、この再編検討を行っています。

今回のテーマですが、答申書にも示されている「地域とのつながり」、「きめ細かな指導」についての課題と解決策をお話いただくことで、今後の市の方針がより確かなものになるのではないかと考えております。グループ協議では、仮に4中学校を1つに統合したとして、1つめのテーマ、「中学校と地域のつながりを保つには」について話し合いをしていただきたいと思います。下に書いてありますのは、答申書の中からこちらで抜き出したキーワードです。2つめのテーマは、「きめ細かな指導体制を継続するには」です。こちらにも下には答申書の中から抜き出したキーワードが書いてあります。これらについて、まずは、前回と同様に、課題と思われることをあげていただき、それをグループでまとめて、いくつかに絞ってもらい、その解決策を話し合っていたいただきたいと思います。時間は午後3時までを目安とし、時間配分については各グループにお任せします。以上です。

○委員長（近）

ありがとうございました。

それでは、早速、グループ協議に移ります。今回は、別紙のグループ編成で協議を行いますので、よろしく申し上げます。進行については、各グループの担当指導主事が行います。グループ協議は午後3時までとします。

それでは、よろしく申し上げます。

---

(2)胎内市立中学校の再編等についての情報交換

グループ協議

-----

【Aグループ 5名（久保、松原、塚野、菅原、上山）】

○指導主事（山沢）

最初に地域とのつながりを保つにはというところです。今回は4中学校を

1つに統合したと仮定して、中学校が地域からなくなった時にこういうことが課題であるとか、反対にこういうことを考えていけば解決できるのではないかと、ということのところをまずは各自で考えていただいて、その後全体で意見交換を行っていきたいと思います。

<各自検討>

○指導主事（山沢）

それでは、時間になりましたので、課題や不安を言っていただければと思います。

それでは、順番にお願いしたいと思います。

○委員

私が感じた課題ですが、1つ目が建てる場所によりますが、各地域との距離が遠くなってしまうということ。2つ目が各地域で行っていた行事をすべて行うことが難しくなるのではないかと、ということ。そして人口減少によって地域の人の数も子どもの数も減っていくので、できることが少なくなるのではないかと、ということ。そして統合する前の課題として、なぜ統合するのかということ、を各地域でしっかりと話し合いをしなければいけないということがあると思います。

○指導主事（山沢）

物理的に距離が遠くなるという点、人口減少や地域から中学校がなくなることによって、今行っている地域の行事などの存続が危ういのではないかと、という点、それから、それを解消するためでもあります、統合する前に統合する意味、理由を共通理解しておかないと地域の協力が得られなくなってしまふのではないかと、という3点をあげていただいたかと思います。

それでは、次の方、お願いします。

○委員

私も今ほどの課題と同じようなことを思ったのですが、逆に学校側の立場として、それぞれの学校が行ってきた地域と深く関わる活動がたくさんあり、統合によりそれをすべて吸収するとなると統合後の学校が消化しきれないのではないかと、という不安があると思います。

解決策の内容となるかもしれないのですが、学校として生徒を預かることとなった初年度に、各地域もちろん大事なのですが、オール胎内として胎

内市全体をみた生徒を育てたいと思うので、胎内市唯一の中学校としてという意識付けをすることが必要になると思いました。

○指導主事（山沢）

今それぞれの中学校で行っている地域とつながった教育活動が、学校を統合した時に1つの学校で4つの学校分を行うことはかなり無理があるという点、それから4つの地域を平等にという考えではなくて、オール胎内という意識をいかに作っていくかについてのお話をいただきました。

続いて、次の方、お願いします。

○委員

私の上の子はもう大きくなり働いているのですが、その頃は各中学校で、例えば乙宝寺に行って掃除をするなどの行事がありました。統合したらそのような行事を行うことが難しくなるのではないかと考えています。

各地域で何か1つそのような行事を行うのか、どのようなバランスで行うのかが心配であると思えます。

○指導主事（山沢）

ありがとうございます。

それでは、次の方、お願いします。

○委員

中学校が1つになることで小学校と中学校の関わりが希薄になるのではないかと、それと地域から中学校がなくなることで地域の人から中学校に対しての支援が薄くなってしまわないかというイメージがあります。あとは地域行事に他の地域の人たちが参加できるような形にしていけることが大事ではないかと思えます。

○指導主事（山沢）

ありがとうございました。今、1つ目のテーマについて各委員から課題をあげてもらいました。

時間も限られていますので、今あげていただいた課題の解決策について、いくつか絞って進めていきたいと思えます。

まず、1つ目が子どもを中心に見たときに、地域と関わりのある教育活動を現状のまま進めていくことが時間的にも数的にも無理があること、そこをいかに絞ってオール胎内という意識を作っていくかというところ、2つ

目は地域の立場からみて、地域の行事にいかにかに中学生に参加してもらおうのかというところ、3つ目が小学校と中学校の関わり、今は各地区に小学校と中学校があつて関わりが非常に強いわけですが、そこがどうなるのであろうかというところ、この3点について、お話をしていきたいと思います。

では、まず1つ目が現在の中学校で行われている地域との活動をいかにかに絞っていくのかということについて、各自ご検討いただければと思います。

#### <各自検討>

#### ○指導主事（山沢）

それでは、まず学校の現状を聞かせてください。

#### ○委員

どうしても活動の濃さは薄まると思います。活動のやり方としてはグループ別にしてグループごとに行く地区や活動を指定するというやり方になるのだらうと思います。例えば、出身の地区と別の地区に活動に行くことで、今まで知らなかったことに触れることができるというメリットはあると思います。

#### ○指導主事（山沢）

小学校の時に出身地区での活動は行っていると思うので、中学校で別の地区に活動に行くのは良いかもしれませんね。課題としては各地区での活動が同じ時期にできるかどうかというところでしょうか。活動を絞りながらできるだけ同じ日に揃えて、メリットが生まれるように知らない地域に行ってみるというようなやり方でしょうか。

次の方、いかがですか。

#### ○委員

学習する時間を確保しないといけないので、現在、中条中学校が行っているように総合的な学習の時間をうまく利用しながら、広く浅くにせざるを得ないのではないかと思います。その中で地域にこだわらず、各地域の方が別の地域の生徒を受け入れてくれる土壌を作っていないといけないと思います。活動内容については、学校の方でどの活動を行うのか選ばせていただく形にしないと学校側が対応しきれないのではないかと思います。

#### ○指導主事（山沢）

学校運営協議会などの各地区の皆さんが集まる際に活動の方針などを説明して、理解していただく必要がありますよね。

次の方、いかがでしょうか。

○委員

活動の数が多いということであれば、各地域が行ってほしい活動という視点ではなくて、胎内市全体で見て、胎内市と言えばこれという視点で活動を絞っていくしかないと思います。

○指導主事（山沢）

オール胎内で考えて核になるものは何かというところですよ。

教育活動という点、学校で対応できる範囲内のもの、オール胎内という視点で活動を考えていく意識が大事だということですね。

では、2つ目の地域の行事にいかにかに学校が協力できるかということですが、今まで学校の授業として地域の行事に参加していたかということ、それは少ないのではないかと思います。ですから、どのような活動があるのかということをおいかに生徒につないでいくかということになると思うのですが、そのためにも学習でそこを訪れているとか、ほかの地域も同じ胎内市ではないかと思える環境を作っていくことが地域の行事への参加ということにつながるのではないかと思いますし、50%の生徒が地域の行事に参加しているという数値もありますので、1つ目の課題への対応が2つ目の課題への解決につながっていくのではないかと思います。

3つ目の小中学校連携というところですが、ここは確かに薄まると思いました。今はそれぞれの中学校区に1つか2つ小学校があるので連携や話し合いはしやすいと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

○委員

統合したら物理的に距離も遠くなりますし、関わる回数も減ると思うので、小学校と中学校の連携は薄くなると思います。ただ、今まで会っていない子と会える、新たな出会いがあるということはメリットだと思います。

○委員

距離がある分、連携は薄くなると思いますので、年に1回か2回は1か所に集まってみんなで交流をする機会を設ける必要があるのではないかと思います。



○委員

私の前任の中学校が6つの小学校から構成されている中学校で、1つの小学校から2つの中学校や3つの中学校に行くような学区だったのですが、中学校に小学生が集まるのは年3回くらいで、それも6年生だけが参加するようないじめ見逃しゼロスクールや新入生の体験入学などの機会だけでした。それでも日程調整はすごく大変で前年度の早い段階から日程を調整する必要がありました。

各小学校からの個別のニーズに全部対応するのはかなり無理があるので、すべての小学校をまとめて対応しないと中学校としては苦しいだろうと思います。

○指導主事（山沢）

そういった時に専門の担当職員のような人はいるのですか。

○委員

新潟市は中学校の教諭を小学校に送り込んで5日間で5つの小学校区に1日ずつ、生徒指導的な視点で職員を加配として配置しているところもあるようです。そういった連携担当教員のような人がいても良いのかもしれませんが。

○指導主事（山沢）

交流の窓口となって日程調整などをする職員は必要であるという気はしますね。

次の方、いかがですか。

○委員

小学校との交流ですとあいさつ運動などがあって、乙中学校だと中学生が小学校の玄関に立ったりしているのですが、そういったことがどうなるのかなと思います。

○指導主事（山沢）

あいさつの日に中学生がそれぞれの小学校に行ったり、小学生が中学校に行ったりしていますが、統合したら小学校でのあいさつ運動後に統合後の中学校までどうやって行くのかという問題が出てきますよね。

○委員

前任校などでは、距離がそんなに遠くなかったので自転車で来させるとか、場所を小学校ではなくて駅前とか人通りのある場所で行ったりしていました。

○指導主事（山沢）

日常的な交流を続ける仕組みは欲しいですね。小学生は中学生の姿を見る機会になりますし、中学生は小学生を思いやり、交流するチャンスになるのでそういう機会をどうにか作れないかというところですね。

時間もありますのでテーマ1については以上としたいと思います。基本的に総合的な学習の時間などをうまく使いながら、学校の教育活動に地域とのつながりを活かしていくと、地域に参画する子どもたちの意識を高めると、その教育活動の中で地域の行事はその地域の子どものしか来れないんだという意識を取り払っていくということが必要だと、そして小中学校連携は少し難しくなるので、ここは工夫が必要だというところでテーマ1は終わりにします。

次にテーマ2がきめ細かな見取りと指導ということですが。難しい言葉になってしまい申し訳ないのですが、例えばいじめが増えるのではないとか、不登校が増えるのではないか、そういった心配があるわけです。各学年1クラスくらいの小規模校であれば、全職員が子どもの名前や顔、どんな子かというのが分かった上で対応できるのだけれども、規模が大きくなったらそうはいかないのではないかという心配があるというお話が適正規模の委員会でもこの再編検討委員会でもありました。その他には、家庭訪問の範囲が広がって大変だというようなお話もありました。

また、少し時間をとりますので、課題とその解決策についてお考えいただければと思います。

<各自検討>

○指導主事（山沢）

では課題について、各委員にお伺いしたいと思います。

○委員

生徒が増えることによって先生も増えると思うので、今よりは先生間の連携が取りにくくなるというイメージはあります。

○指導主事（山沢）

先生が増えることによる先生のチームワークということですね。

○委員

市内に複数の中学校があれば小学校で友達とうまくいかなかった時などに他の中学校へ行くこともできますが、中学校が1つになるとそういう子はどうなるのかという心配はあります。

○指導主事（山沢）

小学校の時になんらかのトラブルを抱えていたお子さんに対して、規模の大きな学校になった時にどう対応できるかというところですね。

○委員

職員が多くなることによって、すべての職員に情報が伝わらないということが起こり得るのだらうと思います。そのようなことが起きないように学校の中の仕組みをどうするかが課題だと思います。

○指導主事（山沢）

情報の伝達が遅くなってしまい対応も遅くなってしまうというところも心配されますね。

○委員

個別に支援が必要な生徒が広い範囲に点在するようなことも考えられるので、家庭訪問などの際に職員の負担が非常に大きくなる可能性があるというのが1点、それと規模の大きな学校になると学年主任の責任が大きくなると思います。学年主任が半分教頭みたいな仕事をしてもらわないといけなくなると思うので、それだけの人材を確保しないと教頭だけでコントロールするのが難しくなる。職員のマネジメントの負担が重たくなると思います。

○指導主事（山沢）

ありがとうございます。

○委員

私も皆さんと同じように1クラスの人数は増えるけど先生は1人のままだから生徒のことを見きれずに、不登校が増えたりするのではないかと思います。

○指導主事（山沢）

今出てきた話をまとめますと、1つ目は職員が増えることに職員のチームワーク、校内体制、これをいかに作っていくのかということ、2つ目は個別支援や家庭訪問が必要な生徒の範囲が広がるので、いかに対応をしていくのかということになるかと思います。

まず、1つ目の職員のチームワーク、校内体制づくりという点についてはどのような解決策が考えられるでしょうか。先ほど学年主任が重要という話がありました。

○委員

学年主任がとても大事になると思います。結局、校長は1人しかいないので。

ただ教育委員会としては、4つの中学校から1つの中学校になることで対応はしやすくなると思います。

○委員

色々なところに顔を出して、色々な情報を仕入れて、その情報を基に対策会議をするぞ、というような役割を担う職が必要だと思います。

○指導主事（山沢）

介助員や学習指導補助員などの市の職員については、現状4つの中学校に分散しているので、それらの職員が1つの学校に集まれば市の職員に関しては手厚くなる可能性があります。

○委員

教員の負担軽減の視点から言うとそこは絶対に必要だと思います。立ち上がりはできれば2人で1クラスの担任をもつくらい的人员が欲しいです。教壇に立つ側の職員は人数が限られてしまうので、軌道に乗るまでは級外の仕事を市の職員の方にフォローアップしてもらわないと厳しいと思います。ただ人数が多くなるとなおさらチームワークは必要になります。

○指導主事（山沢）

教員の数が増えた方が良い点もあって、先生方にとって相談できる人がたくさんいるということはとても大きいと思います。先ほど、小さい学校でうまくいかない子がいたらどうしようという話がありましたが、そういう子がいた時に1人ではなく大人数で対応を考えることができるという利点はあります。

ただ距離的な問題はどうしてもあって、学年主任が対応に当たるという可能性もあると思います。

○委員

先ほど他の委員からお話がありましたが、中学校が1つになることで逃げ道がなくなってしまいます。市外の中学校に行かざるを得なくなる、胎内市内の中学校に通えなくなる生徒が出てきてしまう可能性があるということです。

○委員

例えば5学級あるとしたら、事態が深刻でなければ他の学級が逃げ場所になる可能性もありますが、事態が深刻で校内に逃げ場所がないとなれば市外の学校に行かなければならなくなってしまいます。

○指導主事（山沢）

学級替えで対応しきれなくなった時に打つ手がなくなるということですかね。

○委員

クラス数が増える分、学校内で解決できる可能性も増えるとは思いますが。

○指導主事（山沢）

不登校、いじめという面で何か心配事がありますか。

○委員

通学の距離と時間ということが子どもにとって苦痛になる可能性もあるという気がします。

○指導主事（山沢）

そうですね。ありがとうございます。

それでは時間になりましたので、グループ協議は以上とさせていただきます  
と思います。皆様ありがとうございました。

---

【Bグループ 5名（丹後、富樫、西村、久世、中村）】

○管理指導主事（池田）

それでは、まず、テーマ1ですが、仮に中学校を1つに統合することを前提として、中条中学校の例にあるように、今現在、地域とつながっており良好な関係を保っていますが、つながりを保ちながら進めていきたいというのは、目指す子ども像になっているところです。それをやるにあたって、課題、疑問、不安について時間を取りますので書いていただけますでしょうか。その後、それぞれ意見を出していただき、課題を絞って話し合いをしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

<各自検討>

○管理指導主事（池田）

それでは、解決策については後ほど、お聞きしますので、まずは、課題、不安について順にお願ひいたします。

○委 員

仮に1つになった時に、子どもたちが見る地域の範囲が広がりますので、例えば乙地区であれば、地区内に様々な地域がありまして、他の地区ではあまり知られていないような行事を行っているのですが、それが薄くなってってしまうという不安が1つ。あとは、それぞれの地区でコミュニティ・スクールがある中で、これも同じく狭い範囲で行っているのですが、地域の人からは細かい提案などが出ているのですが、いざ全体となった時に、うちの地域でこのようなことをしようと提案が出る地域と出ない地域と熱量に差が出そうだということの2点です。

○管理指導主事（池田）

子どもの見る範囲が広くなり、接する機会が薄くなってしまうということ、地域によって温度差があるということですね。

同じような考え方の方はいらっしゃいますか。

○委員

私は、そうはならないのではないかと考えています。というのは、何か行う時に、各地区に分けて行うという方法もありますよね。今、中条中学校で行っている方法も良いのではないかと考えています。その地区の子どもだけの問題ではなく、全体的に見てグループごとに分けて各地区に対応する方法であれば良いのではないかと考えています。例えば、このグループは1年間、この地域に関しての活動をする。このように行えば良いのではないかと考えています。

○委員

私は、中条中学校が市内全体を広く活用して、様々なコースを設けて、広く地域の方と関わっているのを聞いて、それを継続して行えば良いのではないかと考えました。

○管理指導主事（池田）

市全体をフィールドと考えて、グループに分かれて学びを深めていく体制を整えていけば、うまくいくのではないかと考えています。

一方で、先ほど意見がありましたが、地域との関わりの中で、それが自分事になるかというところが1つあると思います。例えば、中条地区の子どもたちは、中条地区を大事に思って本町通りのことをしっかりしなければいけないと思うのだけれど、黒川地区のマコモダケのことについて、同じように考え、行動するかどうかというところがあると思いますが、いかがでしょうか。

○委員

きっかけなのだと思います。マコモダケを植え付けに行った経験を応用して地域の活性化につなげていくわけですが、それは自分が住んでいるからとかは関係なくて、胎内市全体をどう盛り上げていくかと考えた時に、その答えにたどり着くわけですよね。ですから、自分事というのは、自分が住んでいるからとか、自分の地域だからとかは全然関係なくて、自分が何を課題と感じるのかということに大きく関わっていくので、住んでいる地域は全く関係ないと思います。

○委員

1つお聞きしたいのですが、中条中学校では中条地区以外で行く地域をどのように決めているのでしょうか。乙地区のイメージといえば乙宝寺なのですが、乙地区の子どもたちは、実は乙宝寺より先にイバラトミヨについて

学びます。他校の子どもたちを受け入れる時は必ず乙宝寺なんですね。気になっているのは、そこなんです。

○委員

それは教員が知っている範囲で行っているからですね。そこに地域のコーディネーターの方が入る。広域になれば様々な地域の人がコーディネーターとして入る可能性があるので、情報は広がるはずです。かかわる大人次第だと思います。

○委員

例えば、マコモダケ体験がありますよね。これはこの辺ではできません。条件があり、きれいな水が流れている場所ではないとダメなんです。

○委員

なぜ、マコモダケになったかという、今回の視点は、マコモダケを栽培することではなく、美しい棚田を残すということがテーマになっています。稲作をする人はいなくて、マコモダケなら植えっぱなしで良いからなんですね。

○管理指導主事（池田）

土地をしっかりと残そうという壮大なテーマ、視点があったわけですね。胎内市をどう大切にしていこうかという視点、意識を子どもたちにもってもらおうこと、私たちのふるさとを如何にプレゼンしていくか、我らのふるさと胎内市をいかに美しく保つかという意識ですね。

○委員

同じような意見が既に出ていますが、昨年、中条中学校の3年生が、本町でマルシェのイベントを行いました。中学生との交流も兼ねていて、素晴らしいと思いました。今は本町だけですが、統合したら各地域へ行って地域との交流が深めていくのが良いのではないかと思います。

○管理指導主事（池田）

前回の中で、各地域にお祭りがあつて、それが廃れていくという心配があつてましたが、そこについてはいかがでしょうか。

○委員



中条中学校は、中条祭りの日を休みにしていますが、それができなくなる可能性があります。各地域のお祭りの日をすべて休みにすることはできませんし、中条祭りも休みにできなくなる可能性があります、各地域のお祭りに学校として参加することが難しくなるのではないかと考えています。このため、例えば、お祭りを日曜日に行ってもらう方法しかないのではないかと考えています。実際のところ、中条祭りは山車の引手など、多くの中学生の参加で成り立っているのが現状です。

○委員

黒川祭りは、小学生がお囃子するなどメインで参加してくれています。小学生から高校生まで参加してくれていますが、黒川祭りが休めなくなるというのは困ると思います。大人は仕事の都合があるので、子どもたちで成り立っている部分はあります。

○委員

お祭りを休日に実施してもらうしかないですね。

○委員

築地も子ども獅子があり、中学生も踊っています。

○管理指導主事（池田）

小中学校の総合学習の中で、胎内市の行事を大切にしていくという視点で、祭りを盛り上げていくための活動を何か考えられませんか。

○委員

これは難しい問題ですね。

○委員

乙地区の子は中条祭りがいつ行われるのか知らない子も多いと思いますので、逆に興味を持つきっかけになるのではないかと思います。

○委員

地域のつながりは、学習活動の中で維持できますが、地域から学校が無くなることで過疎化していきます。小学校は残るので、まだ良いと思いますが、学校が無くなるイコール過疎化が進みます。人は学校のある周辺に引っ越してしまいますから。行政がそれについてどう手を打っていくのかが大きいと

思います。

○管理指導主事（池田）

では、時間もなくなってきましたので、地域の温度差とか、子どもの見る範囲が狭くなってしまって関わりが薄くなっていくことへの解決策として、子どもたちの意識を育てることや教育課程をうまく組むことで何とか盛り上げていくことが大事であるということと、過疎化が進むとか、祭りや地域の行事へ参加できなくなることが起こってしまうが、そこは日程を調整するとか、子ども頼りになるのではなく大人と地域で頑張っけて盛り上げてもらうとか、子どもたちには可能であれば関わってもらいたいというところでしょうか。

最後にコミュニティ・スクールが進んでいますが、これをうまく活用して、地域とのつながりを保っていくとうことについてはどうでしょうか。

○委員

今、各学校に学校支援ボランティアがいますが、学校が1つになったら、どうになってしまうのか。この方々が新しい学校を支援してくれるかどうかという不安があります。

○委員

コミュニティ・スクールで集まった時に、発言する方が少なくなると思います。

○委員

1つになると大きな中条地区の人数の割合が増え、発言権が強くなり人数の少ない地区の意見が弱くなるのではないかとこのところが不安です。

○管理指導主事（池田）

これも1つの大きな課題ですね。今のことを踏まえていただいて、もう1つの課題ですが、仮に中学校を1つに統合するとしますと、生徒数は増えませんが、教員数は相対的に減っています。1人の教員の見る範囲は大きくなってしまいます。現在、市では、少人数の中で、きめ細かい見取り、教育ができていと言われていると思いますが、これを継続するにはどうすれば良いか、また、きめ細かな見取りについて、どのような課題、不安があるのかについて、書いていただきたいと思います。いじめの問題や学力の問題、不登校の問題もあります。よろしくをお願いします。

<各自検討>

○管理指導主事（池田）

それでは、課題の方から順番にお願いいたします。いくつかあげていただいて、解決策を考えていきたいと思います。

○委員

学校が大きくなり、生徒数が増えると、教員は様々なことに対する対応を強いられることになるので負担が大きくなります。いじめや不登校数は必ず増えますが、教員数が減ります。だから、きめ細かな対応が教員だけでは厳しくなりますので、今、チーム学校と言われていますが、カウンセラーや専門家を入れてもらい、市が雇用する教員を増員してもらわなければならないと思います。不登校については、校内に専門の教室がどうしても必要になるので、可能かどうかわかりませんが、そこに地域の方に入っていただくと良いのではないかと思います。とにかくマンパワーですね。例えば老人クラブに関わっていただくのも良いかもしれません。

○委員

学力の面で心配があります。自分たちの時と今では学ぶ範囲が広がっていますので、自分から学びたいという意欲を向上させる環境づくりが大事ではないかと思います。人数が減ることで教員の負担は大きくなってしまいますが、英検をはじめ様々な検定を幅広く実施してもらい、生徒個人の得意な分野を広げられるような環境になれば良いと思います。

○管理指導主事（池田）

個に応じた指導を充実させる必要があるということですね。学校が大きくなることで、それが心配になるということですね。

○委員

今は、どちらかというと個々の能力を伸ばすというよりは、学校は決められたことを行うという、やりたいことができる環境ではありません。今のような授業の形態では難しいかもしれません。全体の底上げに力を入れていますが、学力が高い子、ギフテッドのような子へ細やかに対応できる環境も必要だと思います。

○委員

副担任制などにより置き複数で対応するのも良いのではないのでしょうか。

○管理指導主事（池田）

TT（チーム・ティーチング）ですね。現在、小学校で行っており集団での勉強に困り感のある子どものサポートを行っています。

○委員

たくさんの生徒を個別に細かく把握することは難しいので、何かのシステムを活用して記録、データベース化、把握できる環境があれば良いのではないかと思います。すべての子どもの情報の入力は時間がかかり大変ですが、きめ細かくするならば必要ではないかと思います。

○管理指導主事（池田）

ICTを活用し記録を取って、それをしっかりデータベース化して、教師がしっかり見とる環境づくりですね。現在、デジタルではありませんが、同じようなものでキャリアパスポートという子どもたちの育ちを記録している紙媒体のものがあります。

話は変わりますが、子どもたちが少ないと学力が上がるという捉えがあると思われがちですが、実のところそうでもなくて中条中学校は頑張っって非常に良くできているというところもありますので、集団で学ぶことの良さも実はあると思います。

時間になりましたので、これで終わりいたします。ありがとうございました。

-----  
【Cグループ 6名（山田、佐藤、河内、齋藤、佐久間、近）】

○指導主事（中村）

2つテーマがありますが、初めにテーマ1の課題と解決策について、それぞれの用紙にご記入をお願いいたします。キーワード等についても参考にいただければと思います。

<各自検討>

○指導主事（中村）

それでは、課題、疑問等を順番にお聞きし、多い順に取り上げて、解決策等について皆様から意見をお聞きしたいと思います。では、順番にお聞きいたします。よろしくお願いします。

○委員

中条中学校の地域学習は、胎内市全域で行っていますが、例えば、黒川地区の子が、他の地区へ行った時に、全域をフィールドとした場合に意識や気持ちを向けてすぐに取り組めるのかどうかという点について不安に思っています。黒川地域であれば、小さい頃から何となく知っているため、取り掛かりやすく意欲付けができると思いますが、慣れるまでが不安です。

もう1点はお祭りの行事です。例えば中条中学校では、中条祭りの期間、子どもたちは休みになります。統合した場合、他の地区の子どもたちはどのような出席扱いになるのか、他の地区の子どもたちも中条祭りに参加していくことになるのかなど、地域行事との兼ね合いが不安になります。

○指導主事（中村）

体験活動が、自分の住んでいる地域でなくなるという不安、お祭りとかに参加する時の他の地域の子もたちとの関わり方ですね。

○委員

私は課題や不安を考えたのですが、あまり出てこなくて、むしろ、皆で市内の様々な地域を知るきっかけができるのが良いと思いました。私は築地中学校出身で海に行ったりしましたが、逆に黒川地区の山の方を知りませんでした。ですので、黒川地区にあるスキー場や観光施設などを知るきっかけとなり、逆に黒川地区の子どもであれば、海側を知るきっかけになるのではないかと思うので胎内市全部を知る良いきっかけになるという点が大きいと思います。

○指導主事（中村）

新たな視点で活動でき、ふるさと胎内市を知る良いきっかけになるということですね。

○委員

私の中学校の頃は、このような活動はほとんどありませんでしたが、でも、今、私が地域を嫌いかというところではありません。アンケートでは多くの子どもたちが好きだと回答していますが、現実問題としてふるさとを離れる

若者が多いわけです。ふるさとを思う気持ちを育てるのは、授業だけでなく日々の何気ない通学中などの体験の積み重ねにもあるのではないかと思います。統合して通学がバスに変わることによって、その体験が失われ、それを授業だけでどのようにカバーできるのか、学校だけではどうにもならないのではないかと思います。

○指導主事（中村）

日々、自分の地域の空気や雰囲気を感じ、地域の人と触れ合うことの積み重ねが子どもの成長に大切なのではないかと思います。それがなくなってしまうことへの不安ですね。

○委員

私はベビーブームの生まれで、今、話している地域とのつながり、きめ細かな教育とは当時は全く考えられないことだったと思います。資料を見ますととても良いことが書いてあります。それをどのように実践するのか。これが問題だと思います。これはみんなで考えていかなければならない問題だと思っています。

○委員

地域とのつながりについてですが、先日、新春教育懇談会に出席した際に地域コーディネーターが様々な人とつながっているという、横のつながりに驚かされました。これは市がコーディネーターの人たちを集めて様々なことを行っているからだと思うのですが、このようなことを積み重ねていくことで、統合した時に様々なところとつながるきっかけを作ってくれるのではないかと思います。

○委員

私は、4中学校が統合し、子どもたちが大人数になった時に人間関係が難しくなるのではないかと心配しています。今、不登校やいじめがなくなる、これを改善しなければならない中で、統合することによって人間関係が上手くいくよう今から交流する機会を作り、人間関係を形成できれば良いと思っています。

○指導主事（中村）

そうすると統合までの準備期間が大切であるということですね。すべては、これに尽きるかと思いますが、ここまでの内容をそれぞれ3つほど書き

ました。

例えば、お祭りなどの地域行事はどうしたら良いのか、良い策はありますか。

○委員

各地区のお祭りに対して休みになる場合とそうでない場合が生じますね。調整が必要になりますよね。

○指導主事（中村）

黒川も、中条も神輿や山車がありますので、かつぎ手、引き手がいなくなるので子どもたちに参加してもらわないとだめなんですね。

○委員

皆休みにして市内の子どもたちが参加したら、お祭りがすごく盛り上がると思います。中条、黒川だけでは不公平と思われて逆に他の地域でもやろうということになるかもしれません。

○委員

そうになったら子どもたちの楽しみが増えるかもしれません。お祭りは楽しいとなりますよね。

○委員

準備からの参加は難しいので、準備等はその地域の人に任せて、当日だけでも参加させてもらうというところではないでしょうか。

○指導主事（中村）

お祭りだけでなく、他に地域の行事への関わり方で良い案はありませんか。

○委員

市でもイベントがあり、私もいくつか参加する中で、中学生は少ないと感じています。中学生が参加するように、もっと工夫が必要だと思います。

○指導主事（中村）

イベントの工夫ですね。市のイベントも含めて、参加、協力する中学生が増えるというのは良いことですよね。

○委員

昨年、山あいの小さなお祭りというイベントの時も黒川中学校の生徒が参加しましたが、人数が足りませんでした。そこに他の中学校からも協力してもらえると、各ブースに中学生が配置出来て、手伝ってもらえることが可能になると思います。そういう面では良いかもしれません。

○委員

市のイベントに中学生に参加してもらおう方向性を考えてもらう必要があると思います。

○指導主事（中村）

例えばバスを出すなどですね。

○指導主事（中村）

次に体験活動ですね。一過性でない体験活動をするためには、どうしたら良いと思いますか。例えばどのようなことが考えられますか。

○委員

例えば、乙中学校では乙宝寺近くの千本桜やイバラトミヨの周辺、はまなすの丘を清掃しています、築地中学校であれば海岸清掃を行っています。清掃活動であれば、いつでも、どこでも行えますよね。活動をとおして地域を知ることができます。

○指導主事（中村）

過去に市のイベントに、ボランティアとして参加する子どもたちを募集していた時期がありました。例えば、築地中学校の生徒が、チューリップフェスティバルの案内ボランティアや、中条中学校で中条祭りのあとの清掃活動をしたことがありました。

○委員

規模を大きくし学校全体で参加とすると、人数も多く大変だと思うので、規模を小さくして希望制にすると良いのではないのでしょうか。規模は小さくても頻度を上げるのが良いと思います。

○委員

そうですね。例えば1年生は黒川祭り、2年生は中条祭りなどですね。年



間のイベントの中で定期的に行っていくのが良いかもしれません。

○指導主事（中村）

今まで中学生が地域の活動やイベントに参加できなかったのは、土日にも部活動あり、イベントと部活動の大会が重なるなど忙しくて出れないという状況が考えられます。部活動との兼ね合いが難しいですね。

○委員

他に職場体験などの体験学習、家庭学習、今の子どもたちは大変だと思います。

○委員

今、黒川中学校の運動会は子どもが少なく非常に寂しく感じられます。今のうちに4校合同、小規模2校でも良いのですが、合同で大運動会を開催したらどうかと思います。

そうすることで、子どもたちの交流ができますし、地域の交流もできます。人数が増え、人が集まれば子どもたちのやる気も出るのではないのでしょうか。

○指導主事（中村）

学校行事に地域の人に参加できるのは、体育祭の他に何かありますか。

○委員

合唱祭でしょうか。

○指導主事（中村）

時間もありませんので次のテーマに移ります。きめ細かい見取りと指導を継続するにはについて、小規模校のようなきめ細かな見取りができないという不安が出てきますが、キーワードとして、教員数の減少、いじめ、不登校、地域との連携が薄くなるなどがありますが、いかがでしょうか。

○委員

やはり教員の人員が必要ではないでしょうか。細かく見るためには人が必要になります。

○委員

学校規模によって教員数は決められているので、市で学習指導補助員を配

置してもらえないと思います。

○指導主事（中村）

統合加配として教員1人と事務職員1人が付きます。ただし、3年間だけです。

先ほど、通学での地域との関わりや体験活動も少なくなるということができましたが、これについて意見はありませんでしょうか。

例えば、新発田市は有料となりますが、コミュニティバスを運行している地域もあり、お年寄りや高校生も一緒に利用しています。

○委員

コミュニティバスを運行して、市が補助するというのはどうでしょうか。

○委員

黒川中学校では、現在、冬期間のスクールバスにPTAの方が同乗してくれて見守りをしてきています。統合しても、PTAの方や地域の方に協力をしてもらい行ったら良いと思います。

○指導主事（中村）

市で学習指導補助員を配置し、PTAやボランティアの方々に協力いただくということですね。

きめ細かい見取りということで、他にございませんか。

○委員

子ども同士が、統合前から顔見知りになることが大事ではないかと思えます。そのためには、交流する機会を増やしていくことですね。昔は学校間の交流のためにスポーツハウスでキャンプファイヤーをしていました。

○委員

小学校の時に行った方が良いですね。

○委員

先ほども出ましたが、運動会を一緒に行うのが良いのではないのでしょうか。地域の方もたくさん来ると思えます。

○委員

学校対抗でも、混成でも盛り上がると思います。面白いと思います。

○委員

球技大会も良いではないでしょうか。

○委員

このような交流を行えば、小学校の時から顔見知りになり、中学校で一緒になっても安心できるのではないのでしょうか。

○指導主事（中村）

それでは、時間になりましたので、これで終わります。ありがとうございました。

-----  
○委員長（近）

グループ協議、ご苦労様でした。それでは、各グループの指導主事は、グループで話し合われた内容について要点を絞って説明をお願いします。

Aグループからお願いいたします。

○指導主事（山沢）

Aグループです。テーマ1「地域とのつながりを保つには」についてですが、地域と交流しながら進める教育活動は、4つの中学校でそれぞれ行っています。それらをすべて行うことは現実問題として、難しいだろうということです。学校から地域へ出ることは薄まるだろうと。ただし、大事なのは、どの地域の子が、どの地域に行っても大丈夫なこと。それが必要であり、オール胎内の意識を、授業を通して植え付けていくきっかけづくりを学校が丁寧に行うこと。そのような受け取り方を地域の人にもしてもらおうこと。他の地域の子も受け入れること。生徒も地域も共通理解して進めていけば上手くいくのではないかということでした。そのきっかけづくりをとおして、約51%の中学生が、今現在、既に地域行事に参加しているので、きっかけと橋渡し、意識改革を上手くできれば、地域行事の担い手不足等を解消できるのではないかと考えました。

小中学校連携はどうかというと、今、1小学校1中学校であれば連携はできているのですが、1つの中学校が5つの小学校と交流するのは難しく、薄まるのは仕方がない。それを調整しつつ、大事な要所要所では交流をしっかりと行うこと。例えば、いじめ見逃しゼロスクール集会、体験入学、あいさ

つの日などです。これに関しては、交流、小中学校連携担当職員を置き、調整の窓口を設ける必要があるのではないかという事になりました。

2つ目「きめ細かい見取りと、指導を継続するには」についてですが、1番心配されるのは、職員のチームワークです。人数が多くなるほど、伝達に時間がかかったり、話し合いに時間が必要になったりするところが心配されます。この点については、学年主任の働きが大事でありますし、教育委員会との連携、市の職員を手厚く配置することができないかということでした。例えば介助員、学習指導補助員などを活用できないかということでした。

他には、個別の生徒対応というところで、学区が広範囲となりますので、例えば、黒川地区を家庭訪問した後、乙地区へ行かなければならないということも考えられます。学年としてのチームワークとか役割分担を組織的に考えながら対応する必要があるだろうということでした。

最後にトラブルを抱えた中学生について、統合により学級替えで対応できることとなりますが、学級替えでも心配があるといった時の対応に、今であれば、さわやかルームなどがありますが、それぞれのニーズに対応する方法を考えていかなければならないということになりました。以上です。

#### ○管理指導主事（池田）

Bグループです。「中学校と地域のつながりを保つには」というところで、Aグループでも話が出ましたように、学校が1つになると、子どもの関わりが薄くなり、地域で温度差が生まれるという課題があるということでした。それについては、中条中学校の例にありますように、子どもたちに、胎内市全体をフィールドにして、胎内市、ふるさとをいかに大切にしていくかという意識をいかに高めていくかというところでなんとかできると思いますし、むしろ、そのような方法で考えていくべきではないかということでした。胎内市全体をどう盛り上げていくかという意識で、中条中学校は実践してきたということですので、マコモダケの例がありますが、これはマコモダケを流行らせようということではなく、それを作っている美しい棚田をいかに残していくかというところを視点に学びを深めることが出来たということでしたので、そこを大切にしなければならないということでした。

もう1つは、地域の視点から話をさせていただきますと、地域行事をなかなか自分事としてとらえられなくなり、参加生徒が少なくなるのが心配であるという話がありました。なかなか明確な改善策が出ないのですが、子どもが参加しやすいような、お祭りを休日にしてもらうとか、子ども頼りでなく、大人や地域でしっかりと盛り上げていくとか、できれば、例えば総合学習の

中で、子どもたちが地域の祭りを調べたり、取り上げたりしていくようなことを行ったらどうかという話が出ました。

続いて、「きめ細かい見取りと指導について」ですが、大きく3点出たのですが、その中の2点についてお話します。1つは、いじめ不登校問題ですが、統合により人数が増えると絶対数が増えますので件数も増えます。一方で、それに対応する教員数、これは絶対数が減りますので、なかなか対応が難しvoudろうということが課題となります。それに対しては、やはりマンパワーしかないだろうということでした。教員にだけ頼るのではなくて、地域の力を借りる。例えば、老人クラブの方々に協力いただいて、不登校の子どもたちや子どもたちの見取りなどを行っていただくことによって、地域の方々とWin-Winの関係になるのではないかという話になりました。もう1つは、お金のかかることですが、不登校の子どもたちのための適応指導教室等の環境を整備してもらう必要があるということでした。

最後になりますが、個に応じた指導、個別最適な学びというものが、今後、どんどん求められます。それは人数が多くなるとなかなか難しくなります。先ほどの地域の人材の参画という点も含めまして、もう1つ、ギフテッドなどの非常に能力の高い子たちをいかに伸ばしていくかということも大事にしていく必要があります。そのためには、授業形態や教育課程そのものもしっかりと見直していく必要があるのではないか。また、ICTのシステムを上手く活用して子どもの実態を把握し、データベース化して子どもの見取りに役立てていく必要があるのではないかという話がありました。以上です。

#### ○指導主事（中村）

最後にCグループです。まず、最初に地域とのつながりですが、祭りなどの地域行事との関わり方について、先ほども出ましたが、一斉休業とか、当日参加しやすいようにしないと、中学生の参加が少なくなるのではないかということでした。今後、市のイベントなどと協働して、例えばバスを手配し、参加しやすい、集まりやすい環境づくりを今から進めていくことが大切であるということでした。あるいは、一過性の体験学習はどうあるべきかという話になり、とにかく地道な活動、身近な活動から始めていきたいと思いますし、小規模なイベントも大事にしていきたい。希望制にしたり、様々な市のイベントにボランティアとして参加する機会を設けたりすることが、今後大事なのではないかということになりました。現在の部活動の在り方、これが1番のネックとなり、現状では中学生がイベントに参加することは難しいだろうということで、部活動の地域移行も含めて子どもたちが参加しやすい体制づくりが必要ではないかという話になりました。

また、地域の人がどんな学校行事に参加できるのかという話で、体育祭などで参加枠を設けるとか、学校行事でも地域とのつながりを広げていくことができますし、スクールバスの話も出ましたが、コミュニティバスにしたらどうかと、中学生だけが乗るのではなく、そこには地域の人も乗れるし、交流もあり、地域とのつながりも増えることが考えられるのではないかとということでした。

もう1つ、きめ細かい見取りについて、人的配置が大事であろうと、学習指導員を増やすなどしないと難しいのではないかと、PTAの協力、通学時のボランティアの協力、それも大事であろうという話が出ました。

そして、ここまでの準備段階、統合前までの交流も大事ではないかという話が出ました。合同で修学旅行や宿泊体験を行ってみたり、体育祭や球技大会など学校行事で一緒にできることを行ってみたり、陸上競技場で様々なイベントしてみたらどうかなど、とにかく狭い人間関係を統合までに打破していくような取組をして、人間関係を築く機会を作ることが大事ではないかという話になりました。

A、Bグループと重複するところがありましたが、以上がCグループの内容でした。

#### ○委員長（近）

ありがとうございました。各グループの皆様、ご苦労様でした。

それでは、ここで学識経験者として参加していただいております、濱中委員よりお話をいただきます。よろしくお祈いします。

#### ○委員（濱中）

本日のグループ協議を聞かせていただいて、将来、どういった形で再編されるのか、はっきりしていませんが、このように議論を重ねていくことが大事であると改めて感じたところです。本日も充実した話し合いであったと思います。

今回の能登半島の大地震により新潟市西区の学校も被害を受けましたが、新潟県は過去に中越地震も体験しており、それ以降に建設された校舎は、工夫された造りになっています。今後は防災という点でも学校づくりを考える必要があると思いました。

本日は2つのテーマで話し合いが行われました。現在の胎内市の教育では、良い数値が出ていると感じているところですが、「地域や社会を良くするために何かしたいと思いませんか」という質問に対して、胎内市の小学校6年生と中学校3年生の回答の数値は私の想像を超えていて、胎内市は充実してい

るな、子どもたちに伝えるべきことを伝えているなど感じました。2つのテーマについて私が考えることをお伝えします。1つ目は地域とのつながりを保つために、できることについてです。様々な意見が出ましたが、地域とのつながりの中で、これから世界を舞台に生きていく子どもたちに、どんな力、感性、物の見方、あるいは思いを育んで一人一人の子どもが人生を豊かに生きていくために、どのような経験をさせるかがとても大事で、子どもに身に付けさせたい力、内容、想いがぶれてしまうと、地域に振り回されることになってしまう、そういう心配があります。生徒たちは学業が本業です。したがって、地域としての胎内市のこれからの考えていくのであれば、「生徒に関わらせたい人」、胎内市に住んでいる人だけではなく、オンラインで世界中とつながることができるのですから、「生徒に関わらせたい人」、「もの」、先ほど棚田が出てきていましたが、「関わらせたい催し、お祭り」などをどう位置付けし、再構築して教育課程に入れていくか、その作業がピンチでもあるが、チャンスでもあるということです。それぞれの地域で行っていることも大切なのですけれども、もう1回見直して、これからの時代、子どもたちが豊かに生きていくために、様々な国の人たちが集まってきた中で、「私は胎内市出身です」、「私は中学校の時にこんな経験をしてきました」、「校歌はこんなでした」と披露し、豊かに表現できる、「胎内市はこんな所ですから、ぜひ来てください」と言えるような経験を子どもたちにさせられるように、何か考えていくチャンスになれば良いなと思いました。この時間が大事であると思いました。

2つ目に、きめ細かな見取りのために、という問題です。教員の定数は標準法で定められていて増やせません。統合した場合、加配が付きますが、それは10人や20人も付くわけではなく、1人か2人で、かつ限定的です。定数を崩して人を増やそうとしても県との協議が必要になると思いますし、その人がいません。その状況の中で、胎内市も独自の教員や教育補助員を10人、20人増やすことは現実的に難しいです。やはり、支えるのはマンパワー、ボランティアの力になるのではないかと思いますし、新潟市も同じようにして地域コーディネーターがいて、地域と学校をつないで、大勢のボランティアが学校に入って事務補助等をしてきていますので、教員が児童生徒と向き合える時間が少しずつ増えてきています。

学校運営の見直しや細かな見取りとか、授業の在り方を変えても良いのではないかと、既にオンライン授業を行っている状況ですので、そのようなことを考えながら、どのように細やかな状況に近づけていくのか、これも考える時間があるので準備を進めていくのが良いのではないかと思います。

繰り返しになりますが、いくつかの課題について、このように丁寧に議論

を積み上げている胎内市に敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

○委員長（近）

貴重なご意見をありがとうございました。

---

(3)その他

○委員長（近）

続いて、次回の検討委員会についての説明を、事務局からお願いします。

<事務局による次回の説明>

---

(4)閉会

○委員長（近）

それでは、最後に閉会のあいさつを副委員長よりお願いします。

○副委員長（塚野）

皆さんこんにちは。昨年、第1回、第2回に続きまして、本日の第3回にお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今回のテーマですが、地域とのつながりを保つには、そして、きめ細かい見取りと指導を継続するには、という非常に壮大で難しいテーマだったと実感しております。様々な課題を話していただき、また、解決は簡単ではありませんが、意見を出していただき本当にありがとうございました。なかなか難しいテーマではありましたが、まずは、課題をたくさん出していただき共有できたことが良かったと思います。

次回、3月に第4回を行います。今後、もし統合となった場合に、この課題は本当に重要になります。胎内市の理念であります、地域と共に歩む学校づくりですが、地域と子どもたちが、共に意見を出し合って考えていくことが、とても大事であると実感いたしましたし、また、こういったことが、常に行われていくことも大事であると実感しました。様々な意見をいただき、本当にありがとうございます。次回また、ご参加いただきますよう、よろしく願いいたします。簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

○委員長（近）

以上で、第3回中学校再編検討委員会を終わります。ご参会いただいた皆



様、大変ご苦労様でした。お気を付けて、お帰りください。